

## 合併基本計画に係る平成20年度～22年度実施事業に関する意見に対する対応調書

地区名：牟礼

地区名	項目番号	項目	事業の内容	担当部局	担当課	対応策
牟礼地区	1-①	高齢者や障害者の施設サービスの充実	<p>いろいろな種類の施設が出来ていて、計画的に床数などが確保されていると聞きますが、現実には希望する施設に希望するときに入所するのは難しい状況にあります。利用者が適切に利用することも大切ですが、実態にあった状況を踏まえてサービス必要量を算定し、数字の上だけの充足ではない実質的な施設サービスの充実を進めていただきたい。</p>	健康福祉部	長寿社会対策課 障害福祉課	<p>老人福祉施設の整備については、現在、平成20年度までの高松市高齢者保健福祉計画（介護保険事業計画）における施設整備目標に基づき、整備を行っているものですが、今後、平成21年度からの次期高齢者保健福祉計画の策定に当たっては、高齢者人口の伸び等によるサービス量や施設入所待機者の状況等を踏まえる中で、必要な施設整備を図っていききたいと考えています。</p> <p>障害者福祉施設については、地域で生活することを推進することとなるため、入所は少なくなり、通所での利用が増えていく状況にあります。サービス必要量については、利用者からの申請に基づき、訪問調査等により、その方に必要な支援計画を作成し、必要量を算定しています。今後においても、必要に応じて、計画の見直し・サービス量の変更等も含め、それぞれの方に応じた支援が行えるよう、適宜・適切に対応していききたいと考えています。</p>
牟礼地区	1-②	高齢者の社会参加促進	<p>今後、団塊世代が定年退職を迎え、地域に元気な高齢者が増えてくると予想されます。その智恵や経験を地域資源として活用していくため、現在あるシルバー人材センターの事業の中で高齢者助け合い事業や子育て支援事業への事業拡大を促していただきたい。</p> <p>また、現在、子育てに関しては、ファミリーサポート事業が始まり、その活動が注目されますが、ファミリーサポートシステムを高齢者を地域で支えるための事業など、子育て以外の分野でも登録会員が活動できるよう拡充していただきたい。</p>	健康福祉部	長寿社会対策課	<p>高齢者の豊富な知識・技能・経験を活かし、就業を通じて生きがいの増進と社会活動への参加に取り組んでいる高松市シルバー人材センターに対して、引き続き、財政的な支援を行うほか、同センターに対して、会員の加入促進、高齢者助け合い事業や子育て支援事業の実施について検討を促したいと考えています。</p>
牟礼地区	1-③	在宅福祉サービスの充実	<p>介護保険制度の原点は在宅介護にあります。高齢者が家族との絆を保ちつつ自宅を終の棲家として安心して余生をまっとうできるように在宅介護、訪問診療等の制度を充実するとともに、地域でも高齢者の生活をサポートし、支え合うシステムの構築が必要と考えます。公的サービスを含め、地域で高齢者を支援する関係者のネットワークづくりや家族関係の調整などを行い、在宅福祉の充実を図るため、地域包括支援センターや老人介護支援センターの機能の充実が必要と考えます。</p>	健康福祉部	介護保険課 長寿社会対策課 地域包括支援センター	<p>高齢者ができる限り住み慣れた地域での生活が継続できるよう、地域密着型サービスや居住系サービスの充実を図るほか、地域の高齢者支援の核となる地域包括支援センターや老人介護支援センターの機能を充実するとともに、高齢者福祉の担当各課をはじめ、地域の医療、保健、福祉分野の事業者等の協力をいただく中で、地域包括ケアのネットワークづくりに取り組むなど事業の推進に努めたいと考えています。</p>
牟礼地区	2-①	地域防災体制の充実	<p>旧牟礼町では、小学校区毎に、毎年、町と地域住民、消防団、防災関係機関が参加し、総合防災訓練を実施してきましたが、合併後は、そのような総合防災訓練は実施されていません。災害発生時における防災活動を円滑に実施し、住民あがりの防災行動力を向上させるため、市、防災関係機関、地域の自主防災組織が一体となった総合防災訓練の実施について検討していただきたい。</p> <p>また、災害時に地域住民が適切な避難ができるよう、危険箇所を掲載した防災マップづくりを促進するとともに、高齢者や障害者などの安全確保のため、総務省が推進する要援護者の避難支援プランの策定を積極的に進めていただきたい。</p>	総務部	庶務課防災対策室	<p>総合防災訓練の実施については、平成8年度から、地域住民や自主防災組織等が中心となり、震災対策総合訓練を実施しています。平成20年度に開催する同訓練は、東消防署管内での実施を予定していることから、各連合自治会や関係機関等とも調整し、今後、牟礼地区での開催を含め検討していきます。</p> <p>また、防災マップづくりについては、平成19年度事業として「高松市防災ハザードマップ」を今年度末までに作成し、全戸配布することとしています。</p> <p>また、災害時要援護者支援プランの策定については、支援対策に係るマニュアル案を策定し、平成20年度末を目途に、国のガイドラインに基づく、本市の災害時要援護者避難支援プランが策定できるよう、各地域コミュニティや民生委員など関係機関からの意見を伺いながら進めます。</p>
牟礼地区	2-②	地域住民による防犯対策の充実、交通安全対策の充実	<p>牟礼地区では、子どもたちを犯罪から守るため、また、交通安全の観点から、校区青少年健全育成協議会が中心となり、立哨当番や下校時のパトロールを実施しています。最近では、地域の高齢者の協力も得られるようになり、地域住民による防犯体制は充実しつつあります。</p> <p>このような中、市は地域の自主的な防犯活動に対する支援として、腕章、パトロールベスト、防犯パンフレットなどの提供を行っていますが、このような地域住民による防犯活動をより活性化させるため、青色回転灯の購入や公用車の使用など防犯パトロール活動に対する支援をより充実させるとともに、防犯灯の増設等にも、なお一層の支援・協力をいただきたい。</p>	教育部 市民政策部	少年育成センター 地域振興課	<p>防犯活動をより活性化するための公用車については、職員以外の運転は行えないことから、地区独自での使用はできませんが、現在、少年育成センターが実施している公用車によるパトロールについて、さらに効果的なパトロール方法を検討し、パトロール回数の増加や地区の学校安全ボランティア等との連携強化を図り、防犯活動の支援・協力を行っていききたいと考えています。</p> <p>地域の防犯活動に対して、青色回転灯を利用した防犯活動の実施を希望する団体に対して、青色回転灯の購入に対する助成を検討していききたいと考えています。</p> <p>防犯灯の配分については、全体の枠を示し、各地区連合自治会からの要望に対して均等割・面積などにより配分を行っています。配分を越える要望については、緊急度等を勘案する中で、未利用分および緊急対応のための事務局留保分により対応しています。</p> <p>なお、合併町地区に対する割当については、旧高松市と比較して多めに配分していききたいと考えています。</p>
牟礼地区	2-③	災害時の情報提供手段の整備	<p>災害時、牟礼地区では、支所から防災行政無線や広報車などにより地域住民に情報提供を行っていますが、防災行政無線の一般加入率（平成19年7月1日現在34.3%）が低いこと、また、屋外スピーカーは聞き取りにくいなど、効果的な情報伝達が行われているとは思えません。</p> <p>今後、地震、高潮、台風など災害が発生した場合、地域住民に避難勧告などの防災情報を効果的に周知するため、屋外スピーカーを増設し、防災行政無線システムの充実を図るとともに、FM高松や高松ケーブルテレビへ一括で放送できる総合装置の導入など、情報提供手段の整備充実を進めていただきたい。</p>	総務部	庶務課防災対策室	<p>合併各町が設置している防災行政無線は、それぞれ周波数が異なっており、最終的には新高松市として周波数を統一する必要があるとともに、現行のアナログ式からデジタル式へ変更することを国から求められていることから、現在、旧高松市内でデジタル式同報系防災行政無線の整備を実施しています。合併町のアナログ式同報系防災行政無線についても、機器の老朽等に応じて、順次、デジタル式同報系防災行政無線システムへの更新を予定しており、屋外（スピーカー）子局についても、適切に整備していききたいと考えています。また、平成19年度事業として、FM高松や高松ケーブルテレビ等へ、緊急時の割込み放送ができるよう、統合装置を導入することにしており、今後とも、合併町を含め、市民に対し緊急情報を迅速に提供できるよう整備していききたいと考えています。</p>

## 合併基本計画に係る平成20年度～22年度実施事業に関する意見に対する対応調書

地区名：牟礼

地区名	項目番号	項目	事業の内容	担当部局	担当課	対応策
牟礼地区	3-①	安心して子育てができる社会づくり	「働きたくても育児に不安がある」ということをよく耳にします。次世代育成対策として厚生労働省が事業主に働きかけを行っていますが、育児休暇後も育児は延々と続きます。地域だけでなく企業の子育て支援への参加を働きかけていただくのはもとより、働く親を支援できる制度の強化が望まれます。保育所に病児、病後児保育事業がありますが、まだその数が少なく十分とはいえません。地域内の病院や施設等と連携し、利用しやすく、安心して働きに出ることができるよう事業の充実を図っていただきたい。 また、ファミリーサポート事業が始まり、期待されているところですが、まかせて会員に看護師や保育士などの専門家グループを作るなどして通院や看病など急な要望にも応えることのできる体制づくりを検討していただきたい。 子育てに関する悩み相談等もいろいろなところに窓口があり心強く思いますが、電話で話す勇気のない親等に対し、携帯電話やパソコンからのメールによる相談窓口や情報交換ができる掲示板を設けていただきたい。	健康福祉部	こども未来課	病後児保育については、現在、小児科医院（3か所）と直営施設（1か所）で実施しており、利用希望者も多いことから、高松市こども未来計画でも、さらに1か所増やすことを目標としており、引き続き増設に努めます。 ファミリー・サポート・センター事業は、身近な地域の人たちが子育てを相互に支援するもので、特に資格は必要としませんが、まかせて会員は必ず子どもの扱いや安全管理等の講習を受講しなければならないこととしてあります。また、病気や泊まりを伴う預かりの場合に、ファミリー・サポート・センターと同様のシステムで対応する緊急サポートネットワークも10月からスタートしており、このサービスの提供会員は看護師や助産師などの資格を持つ人となっています。 子育て相談窓口を市民相談コーナーに設け、窓口や電話による相談に応じています。相談内容を十分把握するためには、面談か電話による相談が望ましいと考えていますが、現在、市民が容易に子育て情報を得られるよう、子育て関連情報サイトの立ち上げ準備を進めており、その中での開設が可能か検討したいと考えています。
牟礼地区	3-②	子育て支援情報の発信	香川県子育て支援課や市のこども未来課では、NPO等との協働事業を含めいろいろな支援事業が繰り広げられていますが、その情報が十分にいきわたっているとは言えず、活用できていない状態です。また、地域で安心して子育てができる環境づくりをより進めるためにも、健診や相談事業など母子保健事業の機会等を利用し、行政の情報発信はもとより、子育て関連のNPOに事業に参加してもらい活動の紹介を行なうなど地域資源についても広く周知する機会を設け、関心のある人だけが情報を得ることができるのではなく、必要な人に必要な情報が届くよう、情報を整理し、その人にあった情報の発信ができるようにしていただきたい。	健康福祉部	こども未来課	現在、市民が行政だけでなくNPO等の子育て活動状況を容易に得られるように、子育て情報をまとめた「子育てハンドブック」の作成とともに、「子育て総合情報サイト」の立ち上げ準備を進めています。
牟礼地区	3-③	保育サービスの充実	現在保育所と幼稚園の保育費用には差があり、大変疑問を感じます。保護者の所得により差がある現在の保育所の保育料について、経済的子育て支援サービスの強化として保育料のあり方を検討していただきたい。 また、地域に子どもが少なく子ども同士で遊ばせることが難しいので、幼保一元化などにより、乳幼児でも、親が仕事をしなくても保育サービスが受けられる制度の充実を図っていただきたい。 子どもを持つ親の生活は多様化しています。休日や時間外に保育や子育て支援サービスを受けられるよう保育所等での延長保育や児童館利用の時間延長の充実を図っていただきたい。	健康福祉部	保育課 こども未来課	保育料の違いは、保育所は、幼稚園に比べ子どもの保育時間が長いことや、乳児など低年齢児も保育しているため、子ども一人当たりの配置職員数が幼稚園に比べ多いことなどによるものです。 本市の保育料は、国基準の75%に抑え、残り25%は市が負担しています。また、第3子以降の児童の保育料は減免するなど、保護者の経済的負担の軽減に努めています。さらに、現在、牟礼地区につきましては、合併に伴う激変緩和のため、保育料の軽減措置をしています。 また、はらこどもセンターでは幼保一体化を実施しており、在宅の子育て家庭に対する支援事業を実施しています。今後とも、保護者の多様な保育ニーズに対応できるよう、特別保育の充実を努めていきたいと考えています。 児童館では、土曜日などに、それぞれの施設で工夫を凝らした各種行事を実施しています。
牟礼地区	3-④ (継続)	子育て相談事業の拡充	児童虐待やDVについては、平成19年度に、こども未来課安全係を2名増員して対応していただいているが、過去に牟礼町で行っていた子育て相談事業の状況からみると、行政に直接相談する件数より、子育て相談事業の電話相談によるものが多かった。 地元民生児童委員などを中心に、虐待だけでなく子育て全般の相談を行なう場所として、牟礼、庵治を対象とする相談窓口を牟礼支所内に開設していただきたい。地域ごとの相談事業について、引き続き、前向きに検討していただきたい。	健康福祉部	こども未来課 健康福祉総務課	児童虐待やDVの相談窓口をこども未来課こども安全係に、また子育て相談窓口を市民相談コーナーに設け、面談や電話による相談に応じています。今年2月には高松市児童対策協議会地区個別ケース検討会議を設け、地域ごとの相談や事例について地区の民生委員や主任児童委員など関係機関と連携して、情報交換や支援方法等を協議し、対応することとしています。
牟礼地区	4-①	地域資源としての人材活用	地域の中には多様な知識や技術、特技を持った人々がいます。現在も小学校の総合学習の時間に、こういう人たちに協力をお願いしていると聞いています。生涯学習センターには生涯学習情報提供コーナーがありますが、もっと身近な、郷土の歴史や文化を伝え世代間の交流を図り元気な地域づくりに役立てるような、そういう人々を地域の資源として登録し、誰でもが自分の能力を提供することができ、また、誰でもが情報を知り利用することができるような仕組みを作っていただきたい。	教育部	社会教育課 生涯学習センター	地域づくりに役立つ人材情報については、現在、高松市のホームページ上で公開しています。この人材情報は、生涯学習一般を始め、芸術・文化やスポーツ・レクリエーションなど、8つの分野に分類され、延べ743人の市民の皆様が登録され、地域づくりにご活躍いただいております。今後とも、この人材情報の周知を図るとともに、今年度に策定する新しい生涯学習基本計画の中で、効果的な人材活用の方策を検討していきたいと考えています。
牟礼地区	4-②	食育指導体制の充実	牟礼地区内でも朝食をとらない子どもが大変多くなってきています。「食」は健康のみならず生きる上での基本であるといわれています。市長のマニフェストにもあるように、あらゆる機会を捉えての食育が望まれます。 現在、高松市のホームページには、保健センターに食育コーナーがあり、教育委員会に「早寝早起き朝ごはん」のコーナーが、農林水産課にも食育のコーナーがあります。 食育を知育・徳育・及び体育の基礎となるべきものと位置づけ、窓口を一つにし、関係各課やNPOと連携を図るためにも保健センター内に担当職員を確保し、全庁的な取り組みができる体制づくりをしていただきたい。	健康福祉部 教育部 産業部	保健センター 学校教育課 社会教育課 農林水産課	食育の関係課がそれぞれの役割・視点で、食育に関する情報を提供したり、食育を推進しているが、ホームページについては、関係課の情報が食育にリンクするよう検討していきたいと考えています。また、担当職員の確保については、それぞれの課の専門性や独自性があるので、その点を踏まえながら、関係課との連携・連絡を密にし、情報の共有化に努めていきたいと考えています。 学校教育における食育推進のための施策を検討することとしています。 また、家庭や学校等での多様な啓発活動を通じて、子どもたちに基本的な生活習慣を身につけさせる「早寝早起き朝ごはん」運動の普及・啓発を図っていききたいと考えています。 地元農産物の地産地消を推進する一環として、食育活動に取り組んでおり、今後とも、各種団体と連携し料理講習会等での地元で獲れた新鮮で安全・安心な農産物の提供や、地元農産物を使ったメニューの提供を通じ、生活者の食への関心を高めていきたいと考えています。

## 合併基本計画に係る平成20年度～22年度実施事業に関する意見に対する対応調書

地区名：牟礼

地区名	項目番号	項目	事業の内容	担当部局	担当課	対応策
牟礼地区	5-①	地場産業の振興、活性化	牟礼地区の地場産業である石材業や窯業界などの後継者不足を解消するために、団塊世代の人々を含めた体験型ボランティアの育成や新たな事業展開を生み出すための異業種交流の場を提供するなど、支援策を充実していただきたい。 また、農業、水産業、商工業が低迷している中、それぞれの分野への新技術・新事業創出に対する補助制度の拡充や販路開拓、人材育成、異分野進出、高松（自社）ブランドの育成への支援を推進するとともに、今後とも、国・県および関係機関との連携をさらに密にしながら、実効性のある施策の展開を図っていただきたい。	産業部	商工労政課	地域創業助成金制度を活用するなどし、地域の民間事業の創業と雇用の拡大に努めるほか、商工会や石材組合等の経済団体等への助成を通じ、地域の活性化に努めたいと考えています。
牟礼地区	5-②	農業経営の合理化の促進	農業離れ、後継者不足が急速に進む中、農地を集積し経営の大規模化を図る担い手農家の育成と多様化する消費者ニーズに対応した農産物の高品質化とブランド化による市場の拡大などの対策が必要となってきています。 牟礼町の地域資源を生かし、担い手が、効率的・安定的な農業経営を確立できるよう、多様な経営支援策を最重要課題と位置づけ、支援体制の整備および支援活動の充実強化を計画的に図っていただきたい。 また、遊休農地を有効利用する仕組みづくりや体験交流型農業施策などを推進していただきたい。	産業部	農林水産課	遊休農地については、農地の貸借や農作業受委託などにより利用促進を図るとともに、香川県農業協同組合の「一支部一農場」による集落営農（集落などを単位とした地域ぐるみで行う農業）の推進や市民農園として整備を促進するなど、効率的な農業経営による農地の有効利用を図ります。 体験交流型農業については、香南地区の「香南アグリーム」を活用した農業体験交流が行われており、また、市民農園を活用した農業体験教室を今後とも推進していきます。高松市農産物ごじまん品推進協議会による、ごじまん品料理体験教室や、アンテナショップ、インショップの開催など、地域農産物のPRも含めた体験・交流活動についても積極的に実施していきたいと考えています。
牟礼地区	5-③	石材産業のブランド化と多角的用途への市場開発と転換	今年度、整備が予定されている房前公園（仮称）をはじめ、公園改修整備や河川、道路橋梁改修など、市において実施する公共事業については、グランド・スケープの思想を取り入れ、また、石材の廃材の有効利用について産官学連携による研究開発を進めるなど、新たな用途開発や販路拡大の支援に取り組んでいただきたい。 また、石のフェスティバル事業やストーンフェア事業を石材業の振興やアーティスト・イン・レジデンス事業、交流人口の増大の視点から見直し、より効果的な事業として促進していただきたい。	産業部 文化部	商工労政課 文化振興課	石のさとフェスティバルやストーンフェアの開催や石材組合への助成等、合併により引き継いだ牟礼・庵治両町の事業については積極的に展開するとともに、物産展の開催等を通じ庵治石について情報発信していきたいと考えています。 全国の三大石材産地のひとつに数えられる、牟礼町と庵治町を中心とした石のさとフェスティバルの開催については、交流人口の増大の視点から、開催方法を見直し、国内外の作家が彫刻を制作し、展示するなど、石の彫刻家の育成と市民が芸術作品に触れる場の提供に努めていきたいと考えています。
牟礼地区	6-①	地域コミュニティ協議会の組織づくり	地域コミュニティ協議会の役割は、その地域の住民自治の主体となり、行政と協働して地域の課題を自ら解決していくことです。 そのためには、これまでの自治会や地域に根ざした各種団体、NPOをネットワーク化するとともに、住民自治の中核としての代表性、民主性、公平性、公開性、機能性を備えた組織づくりを目指す必要があります。 高松市は、地域コミュニティ協議会の適切な組織づくりを促進するとともに、協働推進に向けた力量形成への支援を充実させていただきたい。 （詳細は、牟礼地区における地域コミュニティの再構築についての意見書のとおり。）	市民政策部	地域振興課	地域コミュニティ協議会の役割は、その地域の住民自治の主体となり、行政と協働して地域の課題を自ら解決していくことであり、そのためには、これまでの自治会や地域に根ざした各種団体、NPOをネットワーク化するとともに、住民自治の中核としての代表性、民主性、公平性、公開性、機能性を備えた組織づくりを目指す必要があると認識しています。 本市としては、地域コミュニティ協議会の適切な組織づくりを促進するとともに、協働推進に向けた力量形成への支援を充実できるよう、各種支援施策への予算化や手法等について、地域の実情を鑑みながら、更に研究・検討を進めていきたいと考えています。
牟礼地区	6-②	地域コミュニティ活動の支援	牟礼地区における地域コミュニティの再構築にあたり、市はコミュニティ政策の目的を明確化し、市民と共有する中で、政策の推進を図っていただきたい。 （詳細は、牟礼地区における地域コミュニティの再構築についての意見書のとおり。）	市民政策部	地域振興課	地域コミュニティづくりにあたり、市はコミュニティ政策の目的を明確化し、市民と共有する中で、政策の推進を図りたいと考えています。
牟礼地区	7-① (継続)	屋島線（高橋）の整備	屋島線（高橋）の整備につきましては、平成19年度に交通量調査費の予算化を対応していただきましたが、屋島線（高橋）の整備は、牟礼町時代から懸案事項であり、高松東部の幹線道路として整備することにより、地域間交流が促進できるものです。 したがって、引き続き、屋島線（高橋）の整備について、前向きな検討を進めていただきたい。	都市整備部	道路課	高橋の改修につきましては、今年度交通量調査を行うこととしていますが、今後、県道木田郡北部ルート（仮称）事業計画等との整合性にも留意する中で、国、県の補助制度や合併特例債の活用など、整備手法も含め、検討していきたいと考えています。